

各学校を代表して選ばれた12名の児童・生徒

菅谷小学校	5年生	山口 紗英	えがおあふれる嵐山町
	6年生	竹井 友菜	平和な嵐山町 いつまでも…
七郷小学校	5年生	市川 翔子	未来のふるさと
	6年生	藤野美沙希	未来の嵐山町
志賀小学校	5年生	安元 春喜	盛り上がり！嵐山祭り
	6年生	大越 千慧	嵐山町を住みやすい町へ
菅谷中学校	2年生	金子ひとみ	未来逆算思考
	2年生	神吉乃々子	明るい未来の嵐山町
玉ノ岡中学校	1年生	石毛 智哉	復活！駅前商店街 活気で包もう嵐山町
	2年生	立石 椋太	僕らが創る未来の嵐山
大妻嵐山中学校	1年生	秋山 陽菜	いつまでも暮らしたい嵐山町
	2年生	大島 百音	未来へ繋ぐもの

※敬称略



スピーチコンテストの様子



神吉乃々子さん

最優秀賞

「明るい未来の嵐山町」

菅谷中学校2年

神吉乃々子

豊かな自然に囲まれた緑あふれる町、嵐山。私はこの町が大好きです。都会とは異なり、四季の移り変わりを肌で感じる事が出来るからです。日々の自然の変化をより強く楽しめるのは嵐山町ならではではないでしょうか。

私は時々母や友人と都内に遊びに出かけた時など、そのせわしなさに圧倒される事があります。時間に追われている印象と共に、あまりの混雑した街並みに目が回り体力を奪われどっと疲れて帰ってきます。そんな時私にはこの町の静けさと穏やかなさが性に合っているのだとひとひしと感じます。時間の流れののんびりとした、自然の景色は私の心をとて落ち着かせてくれるのです。

現在、地方の人口が急激に減少しているように耳にします。少子高齢化が進み、地域の過疎化が深刻な問題となっている今、これらの町作りを引っ張っていくかなくてはならない私たちはこの問題を見過ごすわけにはいきません。そのためにはまず町の皆が団結して

今まで受け継いできたものをつなげようとする活動を進んで行うことが大切だと思います。具体的に何をすればいいのかわからないので、調べてみたことをあげたいと思います。ある未来予想の記述には、二百年には日本の人口は三分の一になると予測しています。そして恐ろしいことに、「都会化」「過疎化」により地方は滅びる」という未来予想があるのです。そもそも地方の多くは江戸時代の新田開拓に伴ってできたもので、人口減少によってそれらの地域が消えていくのも当然といった考え方で、これを食い止めるために鍵となるのが、「仕事を生み出す産業を地方におく」といった案です。私はこの考えに強く賛同します。

都市だけが機能している状況がそのまま続いていき、地方の動きが止まってしまうなど悲しい未来は迎えたてはありません。IT化が進む現代、地方の仕事を増やしていくという事は決して難しいことではないのです。生まれ育った町で、グローバルな仕事を自分の

職業として展開できる可能性も高いのです。では嵐山町の自然を無くさずに発展させていくには私たちはどのような活動をしていけばいいのでしょうか。私なりに考えてみました。嵐山町には、「オオムラサキの里」や「嵐山深谷」などの自然を求めて、都心から遊びに来てくれる方がたくさんいます。それらを生かし観光を更に発展させていきます。SNSなどを利用して世界中の人たちに日本の、この町の素晴らしいさをアピールします。そして英語はもろろんのこと他の国の言語を話せるように皆が勉強し外国の人も気軽に向うきとなるような町作りをしていくのです。駅周辺の寂しさも気になるところです。あえて田舎らしきも残しつつ、グローバルな環境も進んで取り入れていくことが必要だと思います。こうした考え方に乗り、私たちの未来を明るくのものとしてとらえられていたらどんなに素敵だろうと今から期待してやみません。

嵐山町スピーチコンテスト作品発表



10月22日に開催された嵐山町スピーチコンテストの最優秀作品を紹介します。この嵐山町スピーチコンテストは、嵐山町という郷土で学び、育まれた、今この時代を生きる子どもたちに「未来の嵐山町」という未来へ向けたメッセージを発表してもらい、町への誇りと愛着、そして町のいいところを再発見する機会として開催しています。

審査委員長を務めた永島宣幸教育長は、スピーチコンテストの審査を終えて、「今年のスピーチコンテストは431人の皆さんから原稿を提出いただき、その中から選ばれた12人の方に素晴らしい発表を聞かせていただきました。『未来の嵐山町』というテーマで、豊かな自然・歴史に恵まれた町、地域活性化の工夫、情報化・国際化・少子高齢化等の社会現象への対応など多くの視点からの発表でした。一人一人の発表も素晴らしく、最優秀賞を選ぶことに審査員一同、本当に苦労しました。参加いただいた皆さん、本当にありがとうございました」と述べられました。



大越千慧さん

最優秀賞

「嵐山町を住みやすい町へ」

志賀小学校6年

大越 千慧

嵐山町は今年で五十歳を迎えますが、嵐山町の各年代の人は何人くらいいるのでしょうか。去年の時点で一番人数が多かった年代は四十代でした。嵐山町と同じ五十代は三番目でした。

嵐山町民の約四割を三十歳から五十九歳が占めていて零歳から二十九歳と六十歳から百歳以上はどちらも約三割でした。こうしてみると嵐山町と同じような年代の方が多いことがわかります。

未来のことを考えるとこの年代の方々は高齢になり、嵐山町には高齢者が多くなります。

ところで、

「嵐山町には介護がしやすい環境がいくつあるでしょうか。」私はこの質問にすぐ答える自信がありません。少子高齢化が進む世の中で嵐山町は住みやす

い町と言えるでしょうか。私の望みは、この質問に自信を持って答えられる町にすることです。介護をされる方も介護をする方も笑顔で過ごせる町にしたいです。そのためには、お年寄りの方が楽しく通えて、介護する人も自分の好きなことが出来るような施設づくりをしたり、駅やお店をバリアフリー化したりするなど工夫することが必要だと思います。

またサービスとして自宅近くまで車を出してくれたり、必要なものを届けてくれたりしたら生活がとて楽になると思います。

私はさらに考えたことがありません。それは動物とのふれ合いを通してサービスです。年を重ねてもまだまだ外に出かけたいと思っている人はたくさんいます。

今提案したものが、すぐに実現するというのは難しいことかもしれませんが。しかし、いろいろな人が協力し合い、嵐山町をよりよくしようと思えば、この町はもっと素敵な町になると思います。未来の嵐山町が人に優しい町になるよう、私も町づくりに関わっていきたいです。